

ICT利用によるフランス語入門教育へ向けて[†]

辻野 稔哉*

秋田大学教育文化学部

ICT利用の語学教育と言うと、今日では様々な施設やシステムが整えられ、充実した教材が溢れているイメージがあるかも知れない。しかし、非英語系に目を向けると、まだまだ手探りの状態が続いている。本論では、WebベースのLMSである秋田大学のLePoを利用したフランス語入門クラスを例に、その在り方を検討する。

キーワード：ICT利用教育，LMS，LePo，第二外国語教育，フランス語

はじめに

2012年に発表されたフランス語教育に関する最新のアンケート報告書¹によれば、2010年12月の時点で、全国の大学・短大・高専においてCALL教室を利用した授業が行われているのは全体の10.8%であり、コンピューターやインターネットを用いた授業が行われている割合も21.4%に留まっている。すでに、この調査から3年以上が経過しており、この数字は過去のものかも知れないが、興味深いのは同じく2010年時点で、大学・短期大学の授業でWebベースの汎用的学習支援システム（LMS：Learning Management System）が利用されている割合（すなわち、一定程度のルールとサポートに支えられ、共通のインターフェースを前提として複数の授業が展開されていると考えられる環境の割合）が24.7%であることが報告されている²。その相関性は無論明らかではないが、近年のフランス語のICT利用教育に関連するシンポジウム³などから判断する限り、フランス語のICT利用教育は未だ手探り状態が続いており、慢性的なマンパワー不足とも相俟って、一定規模の支援体制が整わない中ではなかなか本格

の実施が困難な状況が続いていると考えられる。一方、北海道大学のように、1年次の初習外国語科目の週1コマをオンラインでの授業とすることに踏み切り、注目されている所もある⁴。そして同大学の場合も対面授業やネイティブのクラスとの組み合わせによる指導はもとより、教員、TA、技術専門職員等の連携によってオンライン授業をサポートする事が謳われている。こうした状況の中、学習を効果的にする為のツールとして、また近年のキーワードである「自律学習」を促すツールとしてICTを捉え、これを組み込んだいわゆるブレンディッド学習の在り方について、それぞれの現場で検討することは無駄ではないと考える。

近年のスマートフォンの急速な普及に伴い、いわゆるスマホアプリによる外国語学習等も注目されてはいる⁵が、やはりそれぞれの現場事情に即した柔軟な教授環境がまずは必要だと考える。そこに汎用LMSが依然として注目される理由が見て取れるし、実際にMoodleなどのLMSの解説書が複数出版され、語学教育の分野でも注目されている⁶。

本論では、そうしたWebベースの汎用LMSの一つであるLePo⁷を利用したフランス語教育事例について、その導入に至る経緯を含めて報告し、この3年間の利用を振り返って、その現状把握と今後の展望を試みたい。

2014年2月14日受理

[†]For the education in French introducing course using ICT

*Toshiya TSUJINO, Faculty of Education and Human Studies, Akita University

1. LePo導入まで

1-1: 入門外国語における「自律学習」の意味合い

すでに言及した先進事例である北海道大学も含め、近年のICT利用の教育では、自律学習を支援する、あるいは自律学習を促進する為のツールとしてソフトウェアやWebサービスなどを捉えることが重視されている。ところで、この「自律学習」という言葉の持つ意味合いは、担当する教科によって微妙に異なるように思われる。本論筆者は、フランス語やフランス文学の専攻講座は設けられていない四年制大学で、第二外国語としてのフランス語を担当している。このようなクラスの場合、検定試験への対策という観点からICT利用を進める向きもあるが、本論では仏検（実用フランス語技能検定試験）などの各級への合格の為の教材といった特定の目的のための自習教材を念頭に置いている訳ではない。確かに一つのモチベーションとして検定試験を位置づけることに、一定の意義は認められるし、到達目標として分かり易い為、ある程度そうした試験も視野に入れることは確かである。しかし、誤解を恐れずに言い切ってしまうと、入門や基本レベルの検定試験は、専用の参考書や問題集がすでに多数用意されており、そういった教材を購入して試験対策を行えば十分である。それよりも、長期的学習や実践的な観点を念頭に置いて初学者の「自律的」な学習を促進し、それによる効果がさらなる学習意欲へつながるようなポイントでICTを利用しつつ、指導を行うことが必要だと考える。

ここでは、フランス語学習上、一般に初学者が躓きやすいとされているものの中から二つのポイントを例にとって説明する。

1) フランス語の綴りとその読み方

フランス語の場合、英仏両国の歴史的経緯から、かなりの数の単語が英語へ入った為、すでに英語を学習した者にとって単語そのものの意味は分かり易いということがままある。しかし、英語と異なり、語末の子音字を発音しないという原則がある等、単語の読みについては英語とはかなり勝手が違う。多くのフランス語初学者が躓くのがこの点である。単語が読めないままでは、学習が長続きしないのも無理は無い。しかし、フランス語の綴りの読み方には一定の法則があり、これを学習の初期段階でしっかりと定着できるかどうか、その後の学習そのものを

を左右する。

このフランス語綴りの読み方を身につけるには、授業においてしっかりと読み方の規則を理解し、その上で自分でその規則に沿った読みが行えるよう、各自が規則を意識しながら練習を繰り返し、それを身に付けていくしかない。

勿論、こうしたものへの習熟には個人差があるが、それは週2コマといった授業の時間のみで簡単に解決出来ることではなく、学習者の視聴覚に訴えるICT利用が大いに役立つ事項だと考えられる。

2) フランス語の数字

フランス語の数字は、基数においても複雑なものがあり（例えば90は $4 \times 20 + 10$ という考え方で言い表す）、初学者を悩ませるのだが、さらに数字に続く単語が母音で始まる場合と子音で始まる場合ではそれぞれ異なる独特の規則があり、こうしたことを総合すると、とにかく頻繁にヒアリングやリーディング練習を繰り返して慣れる他は無いと言える。

このような項目も、通常の授業で一人一人の到達度に配慮しながら扱うことには限界があり、尚かつある程度独立した項目であるため、ICT利用によって意識的に練習頻度を増やすことが有効であろう。

このように、初習事項の定着度が極めて重要なのであるが、第二外国語の場合、年度によってクラスの人数がかなり変動する上、全学部向けのクラスともなればモチベーションや外国語に対する取り組み方も違ってくる。支援システムには、出来る限りその溝を埋め、様々な項目の定着を目指して、学習者各自の自律的な取り組みを促進する様な環境が望まれるのである。

1-2: 教科書『カドラージュ』からLePoと連動した教材へ

本論筆者は2005年に初学者用の教科書『カドラージュ-フランス語文法-』を共著により上梓した⁸。これはもともとは、専任の教員がいない教育現場での授業や非常勤先で勤務日以外のフォローが難しい授業に対応するために開発したものであった。工夫としては、CDをCD-ROMとしてパソコンでも使えるようハイブリッド仕様にした点にあり、当時の日本のフランス語用教科書ではまだ珍しかった。一般教室や自宅学習においては音楽CDと同様の再生装置で教科書の例文を聞ける普通のCDとして使える

が、CALL教室や「自宅」等でパソコンにセットすれば、ネットに繋がってなくてもWebブラウザで教科書の紙面に収めきれなかった詳細な解説を参照したり、選択肢練習問題が利用出来た。例文等の発音は文章のそばに表示されるボタンをクリックして音声聞く事ができる様になっており、入門用の短い文でも繰り返し再生が容易になる点が通常のCD版のリスニングとは異なっている（通常のCDではトラック数の関係から、複数の文章が1トラックに収められているため、部分的再生を繰り返すづらい）。さらに元の教科書では使えなかった複数のカラー文字による強調を行ったり、同じ例文でも発音に注意を促す表示を付け足す等、教室での通常授業に加えて自学の支援に役立つよう設計されている。CD-ROM用のファイルの記述には標準的なHTMLしか用いていないので、インターネット用のブラウザさえあればMac,WindowsなどのOSに関係なく使えることも、個々人の様々な環境に対応する為の工夫であった。

物珍しさも手伝って好評ではあったが、コンピュータの処理能力によっては表示に時間がかかる等、使い勝手が良くなかった部分もあった。またインターネットネイティブの世代が学習者の中心になってからは、CD-ROMをパソコンにセットすることすら面倒だった様だ。

その後、2010年度末に秋田大学で「教育ICT準備プロジェクト」が立ち上げられた際、この『カドラーージュ』のファイルを同大総合情報処理センターの吉崎弘一氏が開発したWebベースのLMSであるLePo（利用にあたってクライアントサイドに要求されているのはHTML5/JavaScript対応のブラウザのみである）に載せて授業と連動させて使用する案を提示したところ、プロジェクトのモデルコースに採用となった。ちょうど、学内の履修手続きや各種連絡などがオンライン上へ移行した時期であり、学生が学内Webにアクセスすることが日々必須になって来た時期であった。そこで、この際Webベース学習支援システムに移行した方がより効果的だと判断したのである。2011年4月から稼働体制に入ったが、コースのテキストや音声のデータファイル一式は勿論こちらで用意したものの、実際の細かな移植作業等は上記プロジェクト関係者各位と学生アルバイトの諸氏に全面的にお世話になった。さらに、その後数字に関するオリジナルのレッスンを追加し

た他、ネイティブの非常勤講師の協力を得て練習問題等を追加し、吉崎氏のチームにソフト的な改良も加えていただきながら現在運用中のバージョンに至っている。なお、コースのレッスン構成は、基本的に紙媒体教科書のLeçonに基づいている。また、コース全体の目標を「フランス語の基本的な仕組みに親しむ」ことに置いており、フランス語の基礎的な文法を扱うが、時制に代表させると、接続法や直説法単純過去等は扱わず、条件法までを扱うレベルの設定となっている。

2. LePoとのマッチング

2-1: ソフトウェア面

すでに述べた様に、もともと標準的なHTML(v.4)を使ってレイアウトを記述していたこともあり、LePoへの移植は短期間の内に完了した。尤も、周知のようにフランス語の単語には欧文特殊文字が多々含まれており、その辺りの作業ではご苦労もあったと仄聞しているが、一から自作した『カドラーージュ』のファイル作成期間に比べると、極めて短期間の内に作業を行っていただいた。ただし、以前から課題であった音声ファイル(mp3)の処理がここでも問題となった。

一つには、各テキストファイル内から多くの音声ファイルへリンクを張っているため、それぞれのページが重くなり、読み込みに時間がかかってしまう問題。もう一つは、作業チームにフランス語学習者が含まれていなかったため、リンクチェックを結局はすべて教授者が行う必要があった点である。（これはその後の音声追加の時、さらにFlash移行時にも生じるようになった。）前者はFlashの利用によって実行上かなり軽く感じられるようになったので、現状では一応の解決をみている。一方、フランス語の問題は実際にはソフトウェア上の問題ではないが、同じ語学教材と言っても非英語のICT利用の場合、このような問題がどうしてもつきまとい、コース担当者やサポート職員との頻繁で細かな協力作業が不可欠であることの例として報告しておきたい。

2-2: 機能面

システムを作成した吉崎氏によれば、他のLMSと比較して、LePoは「学習目標の達成度評価」の管理充実と、利用者が任意のテキスト情報を各ページに残せる「ふせん機能」を主な特徴としている⁹。

The screenshot shows a Safari browser window displaying the LePo website. The address bar shows the URL <https://els.gipc.akita-u.ac.jp/contents>. The page features a sidebar on the left with navigation options like 'サポート', '設定', '実行中のコース', and '基本フランス語'. The main content area displays a table of lessons and a detailed view for 'Leçon 3 否定文, 疑問文'. The lesson overview includes a '概要' (Summary) section with a list of topics, a '到達目標' (Learning Objectives) section, and a 'システム外課題' (System External Task) section.

レッスン	タイトル	課題種別	ページ数
1	Introduction	文章記述 (自己評価)	3
2	Leçon1 名詞の性と数、主語人物代名詞、動詞etre	システム外 (自己評価)	7
3	Leçon2 第一群規則動詞 (-er動詞)	システム外 (自己評価)	5
4	Leçon3 否定文、疑問文	システム外 (自己評価)	6
5	Leçon4 動詞avoir、冠詞	システム外 (自己評価)	6
6	Leçon5 指示形容詞、所定形容詞、数字を使った表現!	システム外 (自己評価)	6
7	Leçon6 形容詞の性・数と位置、疑問形容詞、数字を使った表現	システム外 (自己評価)	7

Leçon3 否定文, 疑問文

概要
この教材では、以下の内容を解説します。

1. 否定文
2. 疑問文
3. 人や物の提示に関する表現

便利なフランス語表現

- 1) 住んでいるところ
- 2) 職業を聞く
- 3) 趣味を言う

到達目標

1. 否定文を作ることができる
2. 3通りの方法を使い分けて、疑問文を作ることができる
3. 文脈に応じて「これ、それ、あれ」を判断することができる

システム外課題 (自己評価)
自己評価と学習振り返りコメントを記載しましょう。

図1: LePoにおけるレッスンのトップ画面の例. 3ペインの左側でコースを選択し, 右上ペインでレッスンを選択するとトップ頁が現れる. メインペインに概要, 到達目標等が表示されている事が分かる.

The screenshot shows the same Safari browser window, but now displaying the detailed content for 'Leçon 3 2. 疑問文'. The page includes a list of questions and answers in French, with audio playback buttons next to each. The questions cover topics like nationality, using 'Est-ce que' for yes/no questions, and using 'aimer' for likes/dislikes.

Leçon 3

2. 疑問文
フランス語の疑問文の作り方は次の3通りです。

- 1) 平叙文の語順のままの疑問文 (日常語の疑問文) : 文末に?を置き, 語尾を上げて発音します。
 Vous êtes japonais ?
 - Oui, je suis japonais. / Non, je ne suis pas japonais.
- 2) Est-ce que を用いる (日常語の疑問文) : 平叙文の語順のまま, 文頭に Est-ce que (qu') をつけます. que はエリゾーションする語なので, 主語が il, elle, ils, elles などの場合は注意。
 Est-ce que tu chantes bien ?
 - Oui, je chante bien. / Non, je ne chante pas bien.
 Est-ce qu'il est beau ?
 - Oui, il est beau. / Non, il n'est pas beau.
 (beau : ハンサムな)
- 3) 倒置による疑問文 (あらたまった疑問文, 主に書き言葉) : 主語と動詞を倒置させ間にトレデュニオン (ハイファン) (s)を入れます。
 Aimez-vous Catherine ?
 - Oui, j'aime Catherine.
 / Non, je n'aime pas Catherine.

図2: 教科書の例文それぞれに再生ボタンが配置され, クリックすることで音声を何度でも聞くことが出来る.

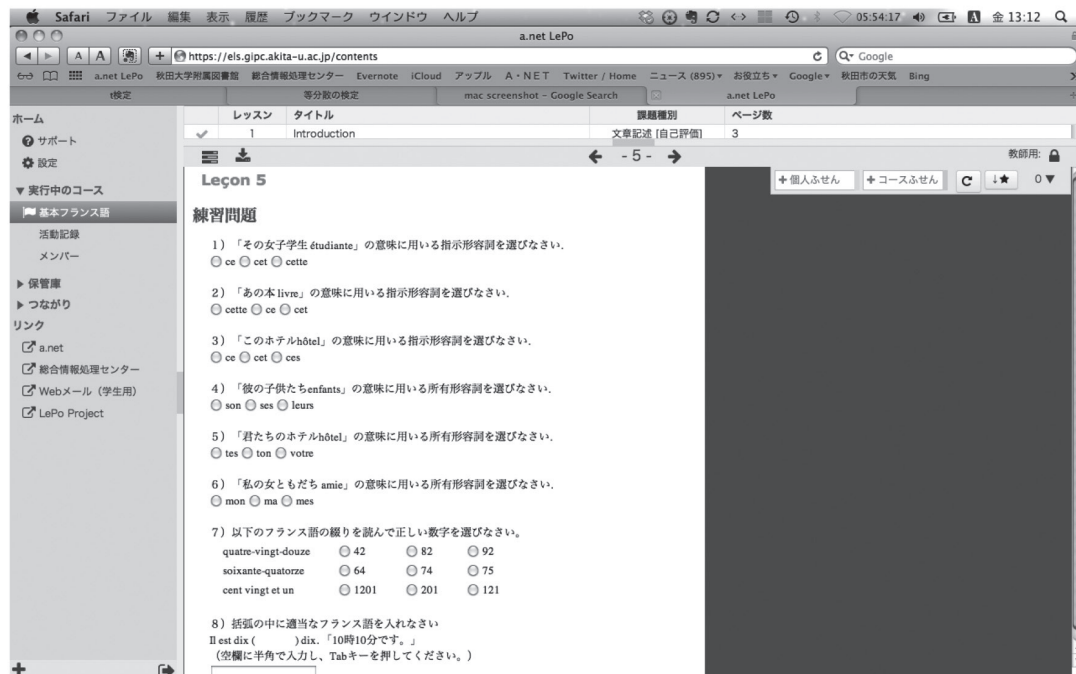


図3：紙媒体には無い，選択肢式問題と簡単な単語を入力する練習問題。正誤はブラウザの警告画面を使って表示される。

まず「学習目標の達成度評価」に関して言うと、LePoでは各コース（教授内容すなわち授業科目に相当する）内に設けられた各レッスンの扉にあたるページに「学習目標の設定」が必須である（図1参照）。これは学生にレッスンのポイントをはっきりさせるという点で有効であろう。それは次節で紹介するアンケート結果からもある程度裏付けられる。そして、上記の目標に対し、各レッスンの終わりに学習者の自己評価と教授者の評価を双方点数で行う仕組みになっている。ところで、語学科目ではこうした目標がそのまま当該レッスンによってすぐに達成されるということは現実的には難しい。従ってその達成度をレッスン毎に定量評価することよりも、もう少し長期的なスパンで、学習内容の定着度をみるの方が重要である。例えば、ある動詞群の活用（語形変化）の習得を目標に挙げてあったとしても、すぐにそれが完璧にできるようにならなければ次のレッスンに進めない訳ではない。しかし、ある程度の期間の間に覚えておかなければその先の学習が困難になってくる。そこで、いくつかのレッスンの振り返りとして小テストの実施が有効となる。すると、各レッスン毎の達成度評価は相対的に意義が

低下し、教学者共に評価機能をあまり使用しなくなってしまう事態に陥る。ここに、LePoの大きな特徴と言える「レッスン毎の学習目標の達成度管理システム」というコンセプトとのミスマッチがあったと言えるかも知れない。一方、LePoの達成度評価の部分に学習者側からの自由記述欄も設けてあったことは、授業実践や授業の進捗設定などにおいてはかなり有用であった。ただ、学習者の書き込みに対応するのは、（コメントのテンプレート機能が用意されているとはいえ）教授者側の負担がやはり大きい。これらをまとめると、対面授業とLePoとの関連付けをかなり上手くコントロールしなければ効果的運用は難しい、ということになる。

もう一つの大きなLePoの特徴は「ふせん機能」であるが、これは学習者個人、または教学者共通でのテキストメモをページ単位で残せるという機能である。しかし、こちらはなかなか効果的な利用ができず、今後の検討課題となった。

2-3：現状でのまとめ

では、1年次を標準履修年次とするフランス語（週2コマ）での現在のLePo使用状況をまとめよう。

対象授業（入門フランス語：1年次前期，および基本フランス語：1年次後期）への履修登録が確定した段階で，全員にLePoのアカウント取得を行ってもらう。その後，総合情報処理センター（CALL教室）で，少なくとも一度は授業を行い，実際にLePoにログインしてもらって，一般的な使用法の説明を受け，フランス語用コースのレッスンで，紙媒体の教科書との違いやリスニングの重要性を確認したり，紙面には無い練習問題などに解答してもらって，使用感覚を確かめてもらう。

その後は，自宅や学内での自発的な利用を呼びかけ，利用者に対してはレッスン後の書き込みに必ずコメントするよう心がけた。しかし，特に宿題等の提出を求めたり，定期的な利用を義務づけたりはしなかった為，フォローアップ体制に一貫性を欠いていたことは否めない。この為，LePoでのコース使用状況は大きくばらついている。今後は，対面学習との連携をより緊密にするため，練習問題などのバリエーションを増やして宿題として使用したり，普通教室の授業においてプロジェクター投影したLePoを使うことなどで，学習者のLePo利用への意識を高めたい。また，前項で述べた様なミスマッチを克服する為，LePo上のコースを元の教科書の構成・章立てに囚われない形へと設計し直すことによって，よりLePoの特徴を生かした環境が作れるのではないかと考えている。

3. 学習者の反応について

LePo上での入門フランス語（対面授業としては，前期・週2コマ，全学向け開講）および基本フランス語（対面は，後期・週2コマ，全学向け，入門フランス語修了者を対象に開講）のコースが2011年度から開始されたが，その時点ではまだ試行的な部分が多かったため，本論では2012年度と2013年度の同構成のコースについての学生の反応について報告したい。これら2つの年度の，それぞれ前期最後の授業において，アンケート（7件法で，1：非常にあてはまる～7：全くあてはまらない）を実施し，12年度は31名，13年度は59名の有効回答を得た。本論においては，その中からシステム全体に関わる4項目，課題と評価の問題に関する3項目，および自由記述欄への回答について取り上げる。なお，2つの年度では母集団の数に開きがあるため，あらかじめF検定を行って，等分散を想定出来る事を確認した

上でT検定を行い，すべての項目で二つの年度に有為な差（ $p<.05$ ）が見られないことを確認した。

1) システム全体に関わる項目

ア) LePoの操作は直感的で，使い方を容易に理解できた

2012：平均2.71 / 標準偏差1.20

2013：平均2.35 / 標準偏差1.26

イ) 各レッスンで学習目標を明記している点は，学習内容を理解する上で役にたった

2012：3.03 / 1.34

2013：2.68 / 1.35

ウ) 学外からも教材閲覧や課題提出を行える点は，学習を進める上で役にたった

2012：3.05 / 1.15

2013：2.61 / 1.36

エ) 他の授業科目でも，LePoを使って学習をしたい

2012：3.07 / 1.28

2013：2.65 / 1.47

システムの使用感や特徴に関しては，一定の評価が得られたのではないだろうか。個人的には，学外からも教材閲覧や課題提出ができる点が予習・復習に大変便利だと考えているが，学習者本人達にとってはそれほどでもないのだろうか。いずれにしても，ICT教材の存在とサーバー・クライアントシステムの恩恵を実感できる様な教材内容と授業運営になるよう，さらなる工夫が必要である。

2) 課題と評価について

ア) 各レッスンで学習目標ごとに自己評価をする点は，学習内容を理解する上で役にたった

2012：3.71 / 1.27

2013：3.77 / 0.96

イ) 各レッスンで学習を振り返ってのメッセージを記載する点は，学習内容を理解する上で役にたった

2012：3.90 / 1.23

2013：3.81 / 1.25

ウ) 各レッスンで教員からの評価メッセージがある点は、学習内容を理解する上で役にたった

2012 : 3.71 / 1.23

2013 : 3.45 / 1.41

LePoの各レッスンでの評価システムに関しては、平均の数値が明らかに大きく、中立的な評価に留まっている。これは、すでに述べた様に、小テスト

などを通じた授業評価とLePoでの評価システムのミスマッチが影響しているだろう。いろいろな意味で今後の課題である。

3) 自由記述：この授業やa.net LePoシステムについて（欲しい機能や使いにくかった点など）、自由に意見等を記載してください。

2012年度自由記述

レイアウトが使いにくかった。特にLeçonを探すときに、スクロールするのが面倒だった。
Exercicesの答えをのせて欲しい。
Leçonをもっと利用すれば良かったです。教科書と連動しているので学習する上でとても便利でした。でもLePoでの教科書の説明がもっと分かりやすいものの方が良かったです。
教科書で十分だと思いました。
面白い機能だとは思ったが、パソコンを立ち上げて、開くのが面倒で、なかなか使えなかった。練習問題のページで、一度選択した答えは、次のページに行くとクリアされてしまうが、どの答えを選んだのか残っていた方が、達成感があって嬉しいと思った。あと、まちがえた問題には印がつくなどの機能があったら分かりやすいので、学習の参考によりなりそうだと感じた。
聞き取り、発音等の勉強には役立つと思ったが、自分の学習目的や勉強方法に合うものではないと思ったので、あまり利用しなかった。また、パソコンで勉強する前、基礎となる知識を身につけるべきだと思い、パソコン学習まで手をのばすことまでできなかった。
教科書のExercicesのCDの問題と解答を当レッスンのExercicesが答え合わせてから、LePoにのせてほしいです。
授業の復習として良い材料になって良かった。(欠席した場合だとより役に立つ) わざわざログインするのが面倒なので、a-netにログインしたら、LePoにも自動的にログインできていればもっと使いやすくなると思う。(逆もまたしかり)
正直なところ、まだ学校生活に慣れておらず、今学期は有効に利用できなかったが非常にありがたいシステムなので、このまま継続してほしい。
機能に関しては、問題はありませなし、十分だと感じました。ページを開く時に、多少動作が重くなりましたが特に気にしませんでした。PC自体のパフォーマンスの問題かも知れません。
システム自体は大変良かった。多忙なときがあって使えなかったことが多かったものの学習にはけっこう役立った。表示されている文章が誤ったものだったり、音声の不具合があったりとけっこう目立ったので、チェックは入念にやったほうが良いと思った。
たまに間違っていたりするので、そうならないようにちょっと気をつけて欲しいと思います。
フランス語以外の外国語にもLePoの機能を付けてほしい。
発音が聞き取りにくい場面がたまにあった。
会話をもっと取り上げてほしい。
ごめんなさい。LePoはほとんど使ってないです。授業はとても楽しかったです。興味も刺激されました。
もっと分割して音声を聞けるようにしてほしい。
学外で使える点はすごくよかったです。

2013年度自由記述

特にLePoを通じての課題は無かったため、この授業ではLePoを使うことはあまりなかった。CDをセットしてトラックを選択して聞くという手間が省けるのはいいと思った。(確認したい部分をすぐに聞ける)帰省中でも復習ができていいと思う。
レポ教材の音声、途中から出なくなっていたのが、すごく残念だった。
LePoは便利なシステムだとおもいましたが、あまり使いませんでした。フランス語では、単語をあまり多く知らず、手を動かして覚えるのに時間を費やしていました。
せっかく教科書にあっているのだから、練習問題のこたえがひとめで確認できればさらに良いと思った。
例文の音声を再生したときに、記載されている文章とはまったく別の文章を読み上げられたところを改善してほしい。
動作がもう少しスムーズだといい。
授業で、予習・復習をする際にとっても役に立ちました。
あまり活用しなかったので、後期から活用したい。
使いやすくてとてもよかったと思う。マーカーを塗れたらもっといい。
あまり使わずに授業が終わってしまいました。今後活用したいです。
教科書とパソコンのLeçon合わせに、毎度つまづく
私はあまりLePoを活用することがなかったと反省していますが、授業内で一度利用したときは、大変使いやすいと、勉強になると思いました。
ドイツ語にもA.net LePoがほしい。どの言語科目にもほしい。
ページ移動がもっとスムーズにいけば良かったと思う。
文が打ちこめるとなおよい。
使う機会はほぼありませんでしたが、会話機能を搭載しており大変便利だと思いました。
家のパソコンでのLePoのシステムの使い方がよく分からなかった。
1週間に1回は使いたいと思っはいるが、なかなかできていない。これからがんばっていこうと思う。
A.net LePoシステムがどこにあるかわかりづらかった。

非常に率直な意見が集まり、大変興味深い調査となった。特徴的な感想として、やはり文章と音声リンクが間違っているという指摘が目立つ。特に、教材追加やFlash採用などのシステム変更後の執筆者によるチェックが甘かったのは事実で、反省材料となった。また、動作の重さへの言及もあるが、これは許容範囲という印象である。問題としては、あまり使用しなかったという学生が少なく無く、対面授業とLePoとの連携あるいはブレンドに改善の余地が大きいことがここでも分かる。しかし、システム自体やLePoを使った学習環境自体に対しては概ね好評価が寄せられており、基本的には歓迎されていると考えて良いだろう。ただし、こちらが意図したような反復練習による重要項目の定着という視点から見ると、前期の段階ではまだ学習者がそうしたことをあまり意識できていないことが分かる。そうした点を、対面授業の中で意識させながら学習を

継続させて行くことが本来の「自律」支援となるはずであるが、そうした段階に至るにはまだまだ工夫が必要なようである。なお、本学では、後期のコース登録者が履修システムの制約から人文系の課程に所属する学生に絞られるのが常態であるため、前期と連動させた追跡調査は行わなかった。

4. 今後の展望

我々は、こうしてLePoと連動した授業運営の三年間を振り返る事で、その問題点が明確になったと考えている。結局、ICT活用の環境を単に整えただけではうまく機能しない。当たり前のようなことが、対面授業との連携をいかに上手く工夫して行かすが、今後とも課題となるだろう。そのことを通じて「自律学習」を促さなければ意味がないという認識が深まった。具体的な運用面の対策としては、ソフトウェア面でのチェック、初年次学生ならではの

施設・機材等への不慣れ、などの問題にはTAなどのサポーター導入を検討したい。しかしより本質的な課題は学習者への対応である。現状ではLePoの操作マニュアルは配付されているが、執筆者の授業内容に即したLePo利用の指針やマニュアルは無い。そこでこれを来年度（2014年度）に備えて作成し、重点的に練習が必要なポイントや予習・復習時の適切な利用法などについて指導を行うことにする。また、LePoの使用率アップの為には、モチベーション面での対策も必要だと考えている。具体策として、宿題化や一般教室での活用等には既に触れたが、その他にも仏検でのリスニング系問題へのLePoの有効活用が考えられるので、今後はそうした教材も追加して行きたい。さらに、中長期的展望として、現在教育現場に少しずつ普及して来ているタブレット端末との連動も視野に入れたい。これは個人的な対応の範囲を超えているが、一般教室でのタブレット端末を用いた語学の授業にはさらなる可能性があると考えており、今後検討・研究を重ねて行きたい。最後に、そもそもICT活用と対面授業のブレンディッド学習を目指している立場から言えば、紙媒体の教科書も時代や環境に合わせたバージョンアップが必要であり、授業をめぐる環境変化を見極めつつ、早い段階で検討に入らねばならないと考えている。

謝 辞

本論の考察対象となった授業およびLePoとの連携作業には、秋田大学総合情報処理センターの吉崎弘一准教授に全面的にお世話になり、様々なアドバイスをいただきました。同時に、センターの皆さんにもいろいろとお世話になりました。心より御礼申し上げます。また、具体的な作業やアシストに関しては、教育情報推進室の原田麻子氏（当時）に多大なご協力をいただきました。ありがとうございます。併せて、原田氏の前任の工藤沙由利氏、作業初期の打ち込み作業等に当たってくれた学生諸氏にもこの場を借りて感謝申し上げます。

註

¹ 日本フランス語フランス文学会・日本フランス語教育学会作成「フランス語教育実情調査報告書」（2010年12月実施，2012年2月結果発表）

http://www.sjllf.org/iinnkai/?action=common_download_main&upload_id=161/（2014年2月14日現在確認）

² 放送大学学園への文部科学省先導的の大学改革推進委託事業「ICT活用教育の推進に関する調査研究」委託業務成果報告書，平成23年3月http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1307264.htm（2014年2月14日現在確認）

³ 例えば，2013年11月16日に東北学院大学で行われた，日本フランス語フランス文学会東北支部大会で行われたシンポジウム「フランス語教育について考える」においてもICT利用の問題がテーマに上ったが，全学的支援，または業者による大規模なサポート体制が導入されていない教育現場では，教員個人の工夫に頼る試行錯誤の事例が多いという話になった。

⁴ 北海道大学外国語教育センターのサイト<http://www.imc.hokudai.ac.jp/lang/center/online.php> および同センターパンフレット<http://www.imc.hokudai.ac.jp/lang/pdf/gaiyo.pdf>（いずれも2014年2月14日現在確認）

⁵ 例えば『Le français diplomatique 外交フランス語』は，大阪府立大学の高垣由美氏によって制作され2013年5月に公開されたiPhone向けアプリであり，同氏運営によるWebサイト「国際機関で働きたい人のためのフランス語講座」（http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/takagaki/ym_kokusaifr/）のために開発されたものである。（2014年2月14日現在確認）

⁶ その代表例が，宮添輝美編・著，ポール・ダニエルズ／テリー・アンダーソン著『Moodle活用法－語学の授業に生かす－』，海文堂，2011である。

⁷ LePoに関する詳細は次のWebサイトを参照していただきたい。<http://lepo.info/>

⁸ 熊本哲也・辻野稔哉著『カドラーージュ』，駿河台出版社，2005

⁹ 吉崎弘一「自律学習を促進するための学習支援システムの開発」、『秋田大学情報処理センター広報』第16号，2013，pp.7-12

Summary

The purpose of this paper is to report a learning method of French as second foreign language using ICT. Especially, by examining experiences

for three years in environment of LePo (original LMS [learning management system] of Akita university), we could make remarks about problems in making classes of French with ICT. In other words, though there were many problems (some technical ones, such as mismatch between LePo and our textbook, somethings caused by insufficient man power, etc.) we could find the possibility of the independent studies, which could encourage students to make efforts through

self-motivation. As a result for the moment, we must research and continue to try some blended methods of learning, in this case face-to-face classroom learning combined with activities using ICT.

Key Words : ICT in education, LMS, LePo,
second foreign language, French

(Received February 14, 2014)